

近森病院 言語療法科

科長 井上浩明

概要

近森病院言語療法科は、2025 年当初 9 名体制で運用を開始した。1 月末に 1 名退職、3 月に 1 名産前産後育休業入りした。4 月に 1 名入職し、8 名体制での運用となっている。臨床面では、昨年に引き続き他部署との連携・協業を強化し、ST の専門的な業務に特化できるよう調整した。業務面では、早出業務のスリム化、連絡方法の一元化を行い、各スタッフの業務負担を軽減した。教育・学術面では、認定言語聴覚士（摂食嚥下領域）を 2 名が取得した。また、日本言語聴覚学会にて 2 題発表した。学生指導では、見学実習生 1 名、短期実習生 1 名、長期実習生 2 名の指導を行った。

業務実績

入院・外来患者処方数は、1045 件（前年 1080 件）であった。月別処方数を図 1、月別実施単位数を図 2 に示す。

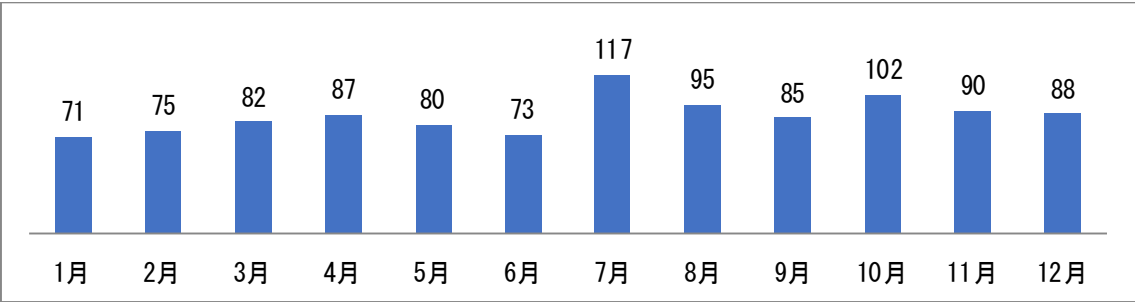


図 1. 月別処方数

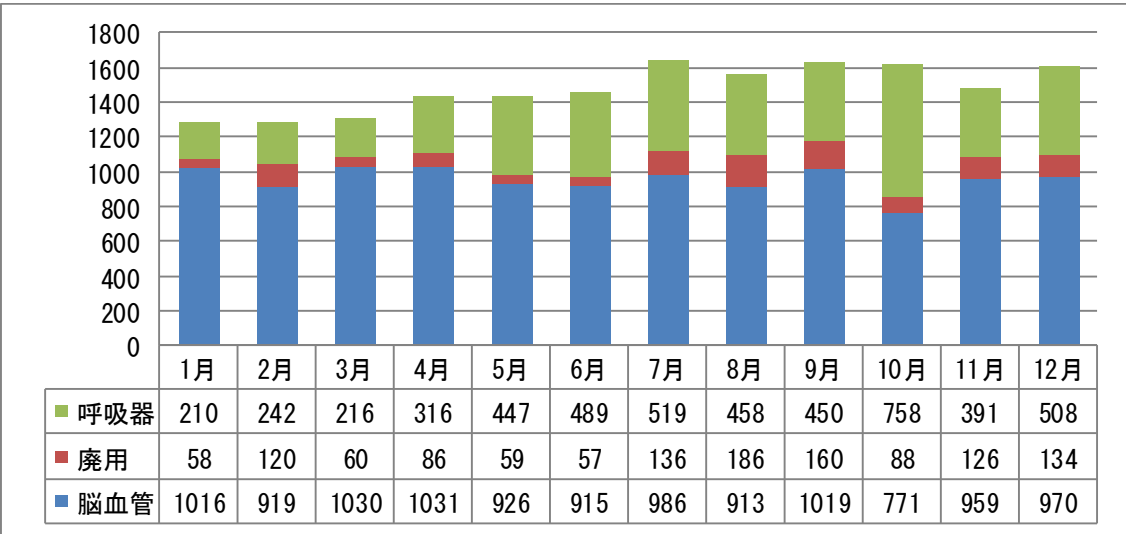


図 2. 月別実施単位数

呼吸器・廃用症候群リハビリテーションでは、摂食嚥下障害の指示が多いため、他部署と協働してリハマネジメントを行い、失語症や dysarthria など言語聴覚士の専門性を発揮できる領域に多く関わるよう業務調整を行った。

終わりに

2025 年も、他部署との連携を強化し、ST の専門性に特化した働き方を提供できた。今後も継続して業務工夫・改善を行い、患者様・スタッフともに有益となるような体制を構築していく。また、臨床だけでなく、研究等で成果を発表し、言語聴覚療法の専門性を高めていきたいと考える。

学術発表

演題名	演者	学会名	開催日（県）
失語症の改善に応じて退院マネジメントを行い急性期治療のみで医師として職業復帰に至った一例	谷脇 美羽	第 26 回 日本言語聴覚学会	6 月 26・27 日 (山形)
当院での手動経管栄養投与中のリハビリテーション実施における嘔吐トラブルと訓練・業務量についての調査報告	井上 浩明	第 26 回 日本言語聴覚学会	6 月 26・27 日 (山形)



第 26 回日本言語聴覚学会 in 山形にて